

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果

達成度(評価)
A:十分達成できている
B:おおむね達成できている
C:やや不十分である
D:不十分である

Table with 2 columns: 学校名 (武雄市立御船が丘小学校) and 1 前年度 評価結果の概要 (保護者評価、学校関係者評価では、本校の教育活動に対しておおむね好意的な評価であった。本校の取り組みについて、理解・協力していただいているため、地域・学校協力の下、学校教育目標の達成ができた。)

Table with 2 columns: 2 学校教育目標 (一人一人の個性を尊重しながら、自ら学び、考え、判断し、表現できる創造的な知性と豊かな人間性をもつ心身共に健康な子どもを育てる。)

Table with 2 columns: 3 本年度の重点目標 (1 あいさつ・返事・ありがとうが素直に言える子ども, 2 自分の考えをもち、友達との交流で考えを高めしていく子ども, 3 進んで運動をしたり、目標に向けて努力を続ける子ども)

Table with 2 columns: 4 重点取組内容・成果指標 and 5 最終評価

Main evaluation table with columns: 評価項目, 重点取組 (取組内容, 成果指標), 具体的取組, 達成度(評価), 最終評価 (実施結果), 学校関係者評価 (評価, 意見や提言), 主な担当者. Rows include 学力の向上 and 心の教育.

●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒70%以上(小学校60%以上、中学校80%以上の数値で学校の実情に応じて設定)	・昨年度の調査結果と比較し、記録の伸びを確認させることで、運動意欲を高める。 ・縄跳び週間を設け、全クラスで取り組ませる。 ・学習カードを活用した体育の学習を推進する。	A	・授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童が71%となり、目標を達成することができた。しかし、昨年度と比較すると約10%減少しているため、運動やスポーツに親しむ児童を増やしたい。 ・縄跳び週間には、学校全体が意欲をもって取り組むことができた。	A	・運動習慣については、社会体育等に親しんでいる子とそうでない子の二極化が進んでいるような気がする。 ・外での遊びやスポーツに親しむ児童が増えるというと思う。	①体育主任 体づくり部部長
	③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	③「健康に食事は大切である」と考える児童100% 「朝ごはんを毎日食べる」児童 90%	・放送による食育指導の実施。(年3回) ・児童によるポスター作成の実施。(年1回) ・朝ごはん取り組みカードの実施。(6月、11月) ・給食試食会等を利用した家庭への啓発。 ・給食週間の設定。(年1回)	A	・6月に引き続き、11月も「早寝、早起き、朝ごはん」の取り組みを全校で実施したことで、2月に実施したアンケート調査では、肯定的に回答した児童が92.7%、保護者が87.9%であり、どちらも9割程度の達成率であった。 ・給食委員会で残菜量を減らすことに取り組んだ。特に、1月の給食週間で、残菜の状況や好きな給食ランキング、また調理員の思いなどを紹介したことで、4月に比べ残菜量が減った。	A	・食事は大切であるとみんなが思っているのはいいですね。「朝ごはんを毎日食べる」児童が100%になるように。 ・朝ごはんを食べる児童の割合は90%以上ではあるが、朝食の内容は気になる。 ・食と命は直結している。そして身体を作る大切な食。家庭での指導が一番大事だと思う。 ・給食について、物価高騰で食材の仕入れ等大変と思われる。子どもたちは育ち盛りで、メニュー、量も苦慮していると思う。	③給食指導
	④「安全に関する資質・能力の育成」	④児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・長期休み明けの交通指導の実施。(年3回) ・年度初めの交通安全教室(全学年)の実施。 ・休み前の鉄道安全教室(1年)の実施。 ・長期休み前の自転車点検の実施(年3回)	・長期休み前には自転車点検を実施した。また、長期休み明けには、朝の交通指導を実施した。交通指導員の協力もあり、年間を通して大きな交通事故は発生していない。 ・安全についての指導を、学校全体や各学級で随時呼びかけを行うことで、事故の未然防止に努めることができた。 ・避難訓練の実施を通して、災害時を意識した避難の仕方を確認することができた。安全・防災の意識の向上に繋げることができた。	A	・長期休み前には自転車点検を実施した。また、長期休み明けには、朝の交通指導を実施した。交通指導員の協力もあり、年間を通して大きな交通事故は発生していない。 ・安全についての指導を、学校全体や各学級で随時呼びかけを行うことで、事故の未然防止に努めることができた。 ・避難訓練の実施を通して、災害時を意識した避難の仕方を確認することができた。安全・防災の意識の向上に繋げることができた。	A	・登下校を含め、安全で安心した学校生活を送れている様子で何よりだ。地域の皆さんのあたたかい見守りのおかげでもあると感じている。 ・年間を通して、大きな交通事故は発生していない。 ・地域でも児童を外であまり見かけない。児童は何をしているのだろうかと思う事があり、昔の子どもは暗くなるまで外で遊んでいたのに。 ・8時過ぎても登校する児童がいる。 ・この項目は、まさに学校・家庭・地域の連携だと思う。A必須である。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	・職員室等の環境整備に取り組むことで、業務改善に向けた職員の意識の高揚を図る。 ・日常的な退勤時刻の確認、早めの退勤を促す声掛け、業務記録簿による自発的時間外勤務に係る時間の把握などにより、業務効率化に向けた意識を向上させる。 ・校務サーバーやスズキ校務、SEI-Netを活用し、校務分掌等の運営の効率化を図る。 ・週1日の定時退勤日を設定し、勤務終了後1時間以内での退勤を推進する。	B	・職員の超過勤務時間平均(4月~1月)は、4月と6月以外は45時間以内であった。また、昨年度の同月との比較においては、ほとんどの月で縮減している。 ・80時間超過勤務の職員(4月~1月)は、延べ11人(延べ割合2.4%)であった。 ・夏季休業中に3日間の学校閉庁日を設定し、5日間の休暇取得を推奨した。教職員が休暇を取得しやすい環境を整備した。 ・その日の待機時刻に見通しを持たせるため、管理職が積極的に声をかけるなどし、職員の意識改善を図ることができた。	B	・時間外勤務時間が少しでも縮減しているのはいいと思うが、中には80時間超過勤務の先生もいらっしゃるようなので、全体で効率化を図ることを望む。 ・学級によって取り組みの差があった。 ・少しずつでも、周りと比べ合わせるのではなく、自分基準で考えてほしい。マンパワーを増やせること必須である。 ・育友会が先生方へお願いしている作業を引き続き減らしていく。(主に学年部会)	管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
	重点取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実	○要支援児童への支援体制の確立	○児童の実態把握に努め、できるだけ早期に対応する。 ○毎週の学年会で気になる児童について話し合う時間を設定する。(学年会の時間における25%を各学級の気になる児童の情報交換の時間)	・学年会で気になる児童について情報交換および指導について考える。(週1回) ・特に気になる児童は、実態把握シートをもとに、具体的な支援の方法について話し合う。必要に応じて、特支主任や特支CDが専門的な見地から相談に応じる。 ・職員連絡会で随時、児童の情報共有の時間を設けて、全職員で共通理解を図る。(週1回) ・実態把握シートと「個別の教育支援計画」に基づいて、SCや専門機関との連携を図り、より実態に応じた支援を行う。	B	・気になる児童についての情報交換は、頻繁に学年を中心に実施されている。そのため、早期の対応に結びついていると考えている。 ・気になる児童への指導などの記録が残されていることで、引き継ぎされ今後の指導に生かされることを周知してきた。そのため、今年度指導したこと、心がけていたことなどが個別の指導計画にはおおよそ記入されていると思われる。 ・SCや専門機関との連携が必要に応じて、実施されていた。	B	・様々な個性や特性をもつ子ども一人一人に適切な指導がなされていると感じる。他の専門機関との連携もよく図られているようだ。 ・6年生の「LGBT学習会」の計画は今日的課題に対応した取り組みで高く評価できる。 ・気になる児童の指導をよくしてもらっている。今後ともよろしく願います。 ・近くにも歩道で遊んでいる。親が見ているけど、時間的にも大変。 ・個別の対応をすごくされてると思う。これからはしっかりと続けてほしい。	・特別支援教育主任 ・特別支援教育C ・特別支援学級担任
○地域連携の推進	○コミュニティスクールの推進と確立	○公民館を核とした地域との連携に努め、情報交換や情報発信を行う。(年2回以上) ○地域人材を招いての授業や行事を実践する。(全学年、年1回以上)	・公民館における児童関連事業の調整を行う。 ・授業や行事でのみふねサポーターの協力を推進する。 ・ホームページを50回以上更新し、学校の情報を地域等に発信する。 ・地域行事を把握し、積極的参加を児童に呼びかける。	B	・2月に実施したアンケート調査で、肯定的に回答した児童が90.8%、保護者が92.6%。 ・授業や行事においては、地域人材を招いての学習や活動を、できる範囲で昨年度より多く実施することができた。授業は3学年が総合的な学習の時間で実施、2学年が行事で実施、1学年が実施できなかった。 ・地域の行事についても、参加を呼びかけたりチラシを配布したりして、積極的参加を促した。 ・ホームページ更新は目標の50回を超えた。今後は、内容の充実を図ってきたい。	B	・今年度もコロナ禍の影響で地域との関わりを縮小せざるを得なかったことは残念だが、次年度に期待したい。 ・地域人材を招いての学習や活動を多く実施できたこと。 ・花まるタイム、私たちも参加したい。 ・コロナは5類になり、終息が見えてきている。花まる学習の地域の参加が考えられる中、子どもたちとの交流は地域の方々も楽しみにされています。受け入れ体制等大変ですが、よろしく願います。	・コミュニティースクール
○読書の推進	○読書の推進を図るために、朝読書・リレー家読に取り組む。	○年間貸出冊数の目標を1~2年は100冊以上、3~4年は80冊以上、5~6年は60冊以上とし、80%以上の達成を目指す。	・朝読書の時間(5分)には、必ず着席して読書するように指導する。 ・週に2回は図書室の本を借りるように呼びかける。 ・9月から「リレー家読」を始める。	B	・年間貸出し冊数は、1.2.4年は80%以上を達成した。5年は、1月末現在で75%であるので、年度末には達成できると思われる。 ・リレー家読については、学級によって取り組みの差があったが、親子で読書するきっかけができたと思う。	B	・外での遊びと本に親しむ児童が多くいるのだとわかった。 ・リレー家読の進め方をもう一度話し合い、どうすれば定着するのか考えてほしい。	・図書館教育

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・保護者評価、学校関係者評価では、本校の教育活動に対しておおむね好意的な評価であった。本校の取り組みについて、理解・協力していただいているため、地域・学校協力の下、学校教育目標の達成ができた。</p> <p>・児童の学びを保証し、安心・安全な学校生活を目指すためにも、引き続き「チーム学校」として、児童の心と体の成長を図ってきたい。</p> <p>・「働き方改革の推進」については、時間を意識した業務遂行、校務分掌等の運営の効率化を図ってきたい。</p> <p>・「読書の推進」については、今後も学校・家庭・地域と連携しながら、児童が読書に親しめるような取り組みの改善を行ってきたい。</p>
----------------	---